

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	大阪府立大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オオサカフリツダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	大阪府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	公立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	イノベーション創成型研究者養成3(企業研究特別演習)
	学部・研究科等名	高等教育推進機構(博士後期課程科目:全研究科学生対象)
	担当教職員名・役職	藤村紀文・教授
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	5
	受入企業等数	4
	受入企業等名	グリコ栄養食品株式会社、ダイキン工業株式会社、東レ株式会社、パナソニック株式会社
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 7.大学院生を対象とした研究インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	各企業の研究所で約3ヶ月企業研究員と共に下記企業の研究テーマを実施。グリコ栄養食品株式会社:開発研究所で澱粉研究ダイキン工業株式会社:テクノロジーイノベーションセンターで新規表面技術研究ダイキン工業株式会社:同上で圧縮機の残存寿命推定研究東レ株式会社:医薬研究所で計算科学創薬研究パナソニック株式会社:先端研究本部で光レクテナ関連デバイス研究
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		博士後期課程1～3年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		大阪府立大学高等教育推進機構提供科目として設定し、シラバスでは通年、時間割外科目となる。博士後期課程対象のイノベーション創成型研究者養成11科目の中の一つとして位置づける。本科目は履歴書、研究概要、研究業績、抱負や志望動機に関する1,000字程度の小論文による書類審査及び15分の自己PRプレゼンと15分の採用面接で受講(企業派遣)を決定する。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	①イノベーション創成型研究者養成講義3コマ、②企業派遣前講座4時間(上記以外にコンプライアンス、安全、衛生、商品原価と研究開発、知的財産) ③契約書内容順守説明 ④研究テーマの論文調査 ⑤保険確認

要素③	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている 4.その他
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	企業からインターンシップ評価書をいただき、上記成果だけでなく、本人の報告書及び企業評価書をもとに日常行動や考え方まで含んだインターンシップフォローアップ面談を行う。また、インターンシップ報告会も行う。
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	日報を月に1回、学生によっては週報を提出してもらう。その他随時メールによる状況報告等を受け、懸念事項ある場合、インターンシップ中に面談を行う。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	上記①の3コマは担当教員及び企業出身教員及びコーディネーター及び現役企業経営者による講義。(イノベーションの必要性、企業の期待、事業創造人材、アントレプレナーシップ関連内容)②③は企業出身コーディネーターによる講義(上記記載)、④は企業とコーディネーターと学生による三者面談で企業から事前学習として必要な論文や資料の提示を受け、学生自ら事前調査、事前研究を行う。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	企業には大学で用意したルーブリック評価(16項目)と自由記載コメントをいただく。学生には秘密情報以外の研究内容、学んだことや気づいたこと、自信がついたことや見つかった課題、後輩へのアドバイス等に関する報告書もらう。学生とはフォローアップ面談を行い、インターンシップの詳しい状況を聞き、企業評価書、学生報告書、本人の報告から学生の改善すべき所と伸ばす所を面談の中で明確化して今後の素養向上につなげる。
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	日報を月に1回、学生によっては週報を提出してもらう。その他随時メールによる状況報告等を受け、懸念事項ある場合、インターンシップ中に面談を行う。学生に問題がある場合は解決に向けたメンタリングを行う。企業に問題がある場合は企業に改善の申し入れを行う。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前情報として、インターンシップ採用時の抱負、志望動機の小論文内容や自己PRプレゼン内容と事後情報として、企業評価書及び本人の事後報告書と口頭報告内容から成長度合いや気づきを確認し、教育的効果を測っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間基本90日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学会活動や授業、学内研究室行事で抜けたりする以外は基本90日。テーマにより充分当初の狙いが達成できそうな場合や、企業都合により90日未満の場合もある。インターンシップはその目的から、従業員同等の扱いになり、研究成果を示すなら最低60日以上は必須と考える。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	

	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前は、企業、学生、コーディネーターの三者面談を行い、事前学習内容の特定、必要に応じて企業から資料の提供、事前準備のための論文や特許の確認を行う。契約締結時は企業でインターシップ育成計画書を提出いただく。(原案は三者面談時の内容を大学から企業に提案)終了時には大学のルーブリック評価書をいただく。(一社)産業協働イノベーション人材育成協議会会員企業の場合は大学、企業意見交換会やシンポジウムを行う。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	大阪府立大学
	担当部署名	高度人材育成センター
	担当者役職名	統括コーディネーター
	担当者氏名	浜田正隆
	電話番号	072-254-8266
	メールアドレス	jinzai@21.osakafu-u.ac.jp